

西南学院における学院史資料室・事務室の変遷

企画広報課

◇はじめに

西南学院は、『西南学院七十年史』（以下『七十年史』）を発刊してから、早20余年が経ち、間もなく創立100周年を迎えようとしている。同書発刊の中心になった学院史資料室¹は、1973年に設置されて以来、度重なる移転を繰り返したが²、2007年に本館4階に移動し、ようやく落ち着いたかに見えた。しかし2009年度に本館機能を2号館へ移転するという計画が持ち上がり、再度移転する必要ができた。とはいえ、本館への移動により、それまで点在していた貴重な学院史資料が1箇所に集まり、分類・整理が容易になったことには変わりはない。ここで学院史資料室・事務室の変遷、学院史に関する業務の歴史などを確認の意味で振り返ってみたいと思う。

◇1967年 広報室開設

学院史編集室が設置された経緯だが、1967年の設置以前は学院史に関する業務は広報室の事務分掌に含まれていた。その業務内容は『七十年史』に詳しい。

「一九六七（昭和四二）年一〇月、学院本部に広報室が開設された時、その職務分担の第一に、『学院歴史の編集に関すること』が含まれていた。しかし、大学広報の発行、規程集の出版等に加えて、大学入試懇談会その他の業務があったため、学院史編集について行動する時間的余裕はなかった。それでも、広報室の他の業務が一段落した一九七〇（昭和四五）年は、各種座談会が開催され、学院の歴史や他大学の校史編纂の事情について調査が実施された。その結果、広報室とは別個に独立した学院史編集室を開設する必要があることが提言された。」²という記述がある。一方、1971年4月、理事会で「学院史をまとめること」が承認され、大学神学部を定年退職した三

1 設置されたときは学院史編集室だったが、その後単独ではなく主に広報業務と兼務したため、学院史資料室となった。

2 『西南学院七十年史』下巻176頁

善敏夫名誉教授が担当することになった。

◇1973年 学院史編集室開設

三善先生の原稿は、1972年12月『『西南学院史監修者懇談会』に提出されたが、種々不備な点があり、(『七十年史』)再編集することが決まった。その担当は広報室となったが、編集実務者の必要性から、1973年、新たに学院史編集室が設置された。その詳細については、『七十年史』の「編集後記」に村上寅次学院史企画委員長が執筆している。

「一九七三(昭和四八)年、当時のW.M.ギャロット院長は、学院史関係事務部門の充実をはかるため、従来広報室の業務の中にあった学院史編集の仕事を広報室から分離し、学院史編集室として独立させ、これまで広報室長であった田口欽二氏に室長としてこの任務に専念してもらうことにした。」

最初の学院史編集室の担当者は、田口室長と平田彌生室員の2名で、事務室は本館2階の北側に事務室(39.26m²)と資料室(26.56m²)が準備された。

このようにして誕生した学院史編集室は、まず舞鶴幼稚園の創立60周年の記念誌『舞鶴幼稚園六〇年のあゆみ－ひかりの子らしく』(1973年)に協力し、次に短期大学部児童教育科の大学文学部児童教育学科への発展的な組織改変を機に『児童教育科三五年のあゆみ－世のひかりをめざして』(1975年)を出版した。さらに1979年には早緑子供の園(保育所)の創立30周年にあたったため『早緑子供の園三〇年のあゆみ－あいされるこども』、『C.K. ドージャーの生涯』の編集を担当するなど、徐々に学院史業務の成果が目に見える形で現れてきた。

◇1977年 自然科学館に移転

その後、1977年9月に学院史編集室は、自然科学館1階³(電子計算機センター設置予定場所)に事務室(約53m²)、展示場(約173m²)として仮配置された。編集室は、電子計算機センターの新設と同時に他へ移転することが決まっており、それまでの間、数台のガラス展示ケース、写真パネルにより学院史資料の常設展示を始めた。写真パネルは1976年に学内展示した創立60周年記念写真展のパネル約400枚を展示場でそのまま利用した。

3 現在は博物館収蔵庫として使用されている。

また、コーブランド院長（当時）は、創立者生誕100年を記念して「学院資料展示室」を含む宗教センターとしてのC.K.ドージャー・ホール建設を計画したが、宗教活動の点から大学敷地のどこにするか未決のままで、1979年6月、理事会の判断により中止となった。

◇1979年 6号館3階に移転

1979年、電子計算機センターの移転が決まり、学院史編集室は6号館の3階の教育実習準備室（56.71m²）に移転した。ここも仮配置だった。

この間、1980年に年史の最も基礎となる『西南学院史資料』（第1集）（第2集）、『西南学院年表』（前史篇・旧学制篇）（新学制篇）を出版しており、基礎資料の整備が行われている。

◇1981年 6号館2階に移転

次に移転したのがワンフロア下の6号館2階だった。これは学術研究所が増築された1981年、児童教育学科教員研究室が同研究所に移転した跡（56.71m²）に移ったものである。

そしてこの前年11月1日に村上寅次学長（当時）を委員長とする学院史企画委員会が立ち上がり、ここから本格的な七十年史の編集に取り組むことになる。それから5年後、1985年に紆余曲折がありながらも『七十年史』の原稿が完成し、翌1986年4月に発刊した。

◇1987年 旧1号館に移転

『七十年史』の完成を見て、翌1987年3月31日付で学院史編集室田口室長が定年退職。同時に学院史業務にあっていた唯一の同室員平田氏も定年を待たず、退職した。これにより独立した事務室としての学院史編集室はなくなり、「学院史業務」として広報・調査課が後を引き継ぐことになった。

6号館にあった学院史編集室と学院史の資料等は、新2号館に移った学生課跡の旧1号館2階に移転した。それとともに可能なものから展示できる準備を進め、1988年5月11日の創立記念日に念願の学院史資料展示室（112.45m²）⁴をオープンした。これにより『七十年史』の発行とあわせて学院の歴史を広く学院内外にアピールする好機

となった。資料展示室の隣には、資料閲覧室（40.03m²）、資料保管室（40.03m²）も併設された。

学院史資料展示室は、老朽化した旧1号館が取り壊される1994年まで8年間の短い期間だったが、それまでに集められた貴重な資料を展示し、学生や教職員に西南学院の歴史を理解してもらうことに貢献した。と同時に、福岡および西新の歴史として地域住民や一般市民にも公開された貴重な情報提供の場となった。

また、1986年には、学院創立70周年を記念してテレビドキュメンタリー『愛と剣と-C.K.ドージャーの生涯』を放映した。これは、広報・調査課が中心となって企画し、RKB毎日放送のチーフディレクター木村栄文氏（1959年・本学商卒）が制作したもので、10月7日にテレビ放映され、好評を得た。作品の中にはドージャーから直接薫陶を受けた卒業生や学院関係者が登場しており、今となっては当時の映像が貴重な資料となった。

発行物は、1989年大学開学40周年を記念して『旧制高等学部から今日までのあゆみ』という小冊子を、また1992年に学院史展示室を紹介するパンフレット「西南学院のあゆみ」を作成している。

さらに1991年は西南学院校歌が完成して70年目にあたるので、記念の校歌CDを製作し、これにあわせて校歌のパンフレット「遙けきかな、わが行く道」を作成している。これらは全て広報・調査課が中心となって行ってきた事業である。

◇1994年 本館2階に移転

その後、旧1号館（1952年竣工）が老朽化のため建て直されることになり、残念ながら学院史資料展示室も取り壊されることになった。学院史の資料や展示物の主なものは本館3階（49.04m²）に移転し、展示ケースに収納・公開していた学院史の資料は、本館の2階、3階、4階などに展示し、さしあたって必要のない資料や古文書などは6号館倉庫や図書館などに分散して置くことになった。

これを契機に西南学院に学院史に関する建物または資料館を設置しようという構想が持ち上がり、村上寅次理事（当時）の名前で提出された「西南学院歴史資料館設置の必要性について」（1994年11月8日付）に結実していくことになる。当時は旧1号館の学院史資料展示室が取り壊された年であり、担当者も展示室が継続されることを

4 1952年に竣工された旧1号館は、大学として最初の建物だったため詳しい資料が残っておらず、展示室の広さはフロア全体の面積しか分からなかったが、按分して算出している。

望んでいたに違いない。この資料館の構想は、以下のように西南学院史、西南学院大学史を中心にアジアにおけるキリスト教も範疇に入れるなど、幅広いビジョンがあったことが伺える。

I. 西南学院資料館の機能

- (1) ①西南学院の資料収集・整理
②西南学院大学史の資料・整理
③南部バプテストの東洋（日本）宣教歴史と西南学院
④アジアにおけるキリスト教と社会関係を示す展示
- (2) 資料館担当の事務局と主任担当者の配置

II. 「博物館法上の相当施設」（学芸員資格取得の実習施設）との関連

学術研究所を中心とする研究委員会の設置
考古学、民俗学、キリスト教史学、日本史、キリスト教音楽、
キリスト教教育史の諸分野を含む

III. 西南学院アジア地域〔宗教、文化、社会〕研究所（仮称）の設置の展望

学術研究所の研究の一環として、語学、言語、社会、教育、宗教など

しかしこの構想は意見具申として常任理事会で報告があったものの、その後理事会での検討には至らなかったことは残念である。ちなみに村上寅次氏は1996年に逝去されたが、ご遺志により1996年度、特別寄付として学院史資料整備寄付金1千万円を法人本部に寄付された。しかし寄付の目的にあった施設が検討されなかったため、一般寄付扱いになった。

1996年、学院創立80周年を記念して『SEINAN SPIRIT-C.K. ドージャー夫妻の生涯』を広報課が発行した。

◇1997年 本館Ⅱに移転

1997年4月、企画調整課が新たに誕生し、広報・調査課は広報課に変わって学院史業務も引き継いだ。広報課が本館Ⅱに移転したことにより、本館3階にあった学院史資料室の資料も移動した⁵。本館から移動してきた資料は、本館Ⅱの学院史資料室（19.20m²）と書庫（16.00m²）が主な収蔵場所だったが、資料室とは言い、歩くの

に苦勞するほど狭く、作業もできない状況にあった。取蔵できないものは、1階の小会議室や階段下倉庫などに分散して格納した。

2年後の1999年の4月、学院史資料室係長に富永嗣夫氏が就任。事務室は本館2階、企画調整課に隣接して配置されたが、学院史の資料は大部分を本館Ⅱに残したままにして必要な資料だけで業務を行っていた。残った学院史資料と特定業務以外の学院史業務は、そのまま広報課が引き継ぎ、同年に『写真西南学院大学50年』を出版した。

2003年7月、大幅な事務局本部の組織改変が行われ、企画調整課と広報室の業務を統合し、企画広報課として新たに誕生した。学院史の業務は企画広報課にそのまま移管されたが、富永氏とともに学院史資料室は本館Ⅱの書庫（18.00m²）に移転し、企画広報課は本館の2階、学院史の資料は本館Ⅱという学院史の諸機能が分散される形となった。

同じく当組織改編で、地域社会と大学の連携を図ることを目的に新たに学外連携推進室ができた。同室の業務のひとつは福岡市との連携のもとに計画された子育て支援施設であった。それは2007年に乳幼児親子の交流の場である子育て支援施設「西南子どもプラザ」として本館Ⅱで運営を開始した。その運営を開始予定の2007年に間に合うよう本館Ⅱの1階を改修することになったため、2006年度中に学院史資料室も移転を余儀なくされた。



学院史資料室

-
- 5 その他展示ケースに収納されていた資料は、そのまま継続して本館で展示された。

◇2007年 本館4階に移転

2003年4月、中高が百道浜校地に移転した後、最も古い建物である西南学院講堂（1921年竣工）を耐震補強して博物館に改修しようという計画が持ち上がった。その後順調に進み「キリスト教文化、教育文化、地域文化、西南学院史等に関する博物館資料の収集、整理、保管、閲覧及び展示に関する事項」を業務とした西南学院大学博物館は2006年の5月に完成した。博物館収蔵庫（自然科学館の旧情報処理センターマシン室・資料室・準備室を予定）に学院史の資料を置くことが考えられていたが、スペース的に不十分だったため、学院史の資料が収納できそうもなく、あらためて見直しが必要になった。

結局、当初2006年には学院史資料が博物館収蔵庫に移転する予定だったが、新たに保管場所を確保しなければならず、試行錯誤の結果、本館4階の会議室(1) (49.64m²) および旧同窓会応接室 (34.24m²) に移転したのは2007年の3月だった。しかし、この時点で、本館4階の空き室となった旧同窓会事務室 (39.25m²)、同小会議室 (39.67m²) の用途、および本部事務次長室増設の検討が急遽浮上し、その結果、企画広報課が本館2階から同4階へ移転することになった。そのため、学院史資料室も小会議室(1)に移った。その小会議室(1)も耐荷重の問題で6月に小会議室(2)に変わり、隣接した共同作業室を使わせてもらうため2部屋の壁を取り払って、今の姿に落ち着いた (74.12m²)。主な備品は、書類キャビネット9台、写真キャビネット5台、書架25台、整理用机3台、事務机2台、ブックトラック2台、パソコン・プリンター1台などである。

この段階で、今まで分散していた資料もようやく1箇所に集約され、百年史を編纂するに当たってのスタートラインに立つことができたと言えよう。今から未整理、未分類の資料に着手しなければならないが、まずは分類表の見直しからはじめたいと考えている。

◇おわりに

『七十年史』を発刊して以来、20年の間に、①学院史業務の担当者が広報業務と兼務であったこと、②事務室及び資料室の移転が4回もあったこと、③資料が分散され、集めた資料を十分に分類できなかったこと、等々学院史業務にとって好ましからざる状況が続いた。しかも老朽化した本館の建て直し計画が順調に進むと、2009年にはまた移転しなければならないという運命が待っている。言うまでもなく学院史は順序や

並びが大切であり、頻繁にモノを動かすことはなるべく避けなければならない。やはり独立した建物が望ましい。100周年をひとつの契機として村上案のような構想が実現されることを願っている。

学院史という歴史を扱う仕事は、前向きな仕事ではなく、どちらかと言えば歴史を振り返るという後ろ向きな仕事に見える。しかし、歴史があつてこそ現在があるのであり、後ろを振り返つてこそ将来が見えてくるのではなかろうか。

(文責・世戸口尚英)

学院史資料室・事務室の変遷

(冒頭数字は月)

年	学院史関連	資料室・事務室	名称及び責任者
73年		4 学院史編集室を開設。場所は本館2階(65.82m ²)。	4 室長田口欽二。
77年		9 学院史編集室は自然科学館の1階の事務室(53m ²)と展示室(173m ²)に仮移転。	
79年		6 6号館3階に移転(56.71m ²)。	
80年		11 村上寅次学長が委員長となり、学院史企画委員会を組織。	
81年		6号館の2階に移転(56.71m ²)。	
86年	4 『西南学院七十年史』発刊。 5 学院創立70周年記念式典。 10 テレビドキュメンタリー「愛と剣と-C.K.ドージャーの生涯」を放映。		
87年		4 学院史資料室が6号館から旧1号館2階(元学生課)へ移転。展示室(112.45m ²)・閲覧室(40.03m ²)・保管室(40.03m ²)。	3 学院史資料室の田口欽二、平田彌生が退職。 4 学院史資料室の業務が、広報・調査課に移管。主に課長の芳永弘が学院史担当。
88年		5 学院史資料展示室が旧1号館2階にオープン。	
89年	5 『西南学院大学開学40周年-旧制高等学部から今日までのあゆみ』発行。		
91年	2 西南学院校歌完成70年目を記念してCDを製作。 12 校歌のパンフレット『遙けきかな、わが行く道』を発行。		
92年	2 学院史資料展示室のパンフレット「西南学院のあゆみ」発行。		
94年		6 学院史資料展示室閉室。と同時に学院史資料も本館3階(49.04m ²)を中心に1階～4階、6号館裏倉庫、図書館旧職員休憩室などに移転。	
95年			7 広報・調査課長に高松千博。
96年	5 学院創立80周年記念式典。『SEINAN SPIRIT-C.K.ドージャー夫妻の生涯』発行。		

年	学院史関連	資料室・事務室	名称及び責任者
97年		4 本館3階の学院史資料を本館IIの資料室(19.20m ²)と書庫(16.00m ²)に移転。	4 広報・調査課は広報課に変わり、学院史業務も移管。課長に山田能久。
99年	6 『早緑子供の園50年のあゆみ』発行。 11 『写真西南学院大学50年』発行。		4 学院史資料室係長に富永嗣夫。学院史業務の一部を本館2階で担当。
03年			7 本部再編により広報課は企画広報課に変わり、学院史業務も移管。課長に高松千博。
05年			3 百年史編纂諮問委員会が組織される。
06年	5 学院創立90周年記念式典。旧高校講堂を大学博物館に改装してオープン。 5 『西南学院史紀要』を創刊。	5 大学博物館にドージャー記念室(1F)、西南学院の歩みコーナー(3F)設置。	3 富永嗣夫が定年退職。学院史は企画広報課に移管。 4 企画広報課長に古賀敦子。 12 百年史編纂準備委員会が組織される。
07年	5 『西南学院史紀要』2号発行。	3 点在していた資料を本館4階小会議室(1)(49.64m ²)に集約。 6 本館4階小会議室(2)と共同作業室の壁を撤去して移転(74.12m ²)。	

(敬称略)